

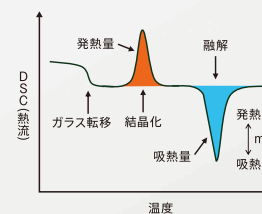
環境に負荷の少ないクルマの開発には、
ボディのダイエットも大きな課題です。



日立ハイテク、進化を加速させる技術。

低燃費なエンジン、ハイブリッド、電気と、クルマは環境に負荷の少ない性能を実現してきました。しかし、2050年カーボンニュートラルの実現をめざすためには、電動化の加速やさらなる燃費の向上が課題となっています。ここで求められているのが、鉄の代替材料となる軽量・高強度なFRP(繊維強化プラスチック)などの樹脂素材や、さらに様々な素材を適材適所で採用することによって実現する、車両軽量化です。日立ハイテクは、物質の温度を変化させた時の物性の変化を高精度に分析する熱分析・粘弾性装置で、素材の開発や品質管理に貢献。示差走査熱量計NEXTA®DSCシリーズは、世界トップレベルの感度とベースライン安定性を実現。示差熱重量同時測定装置NEXTA®STAシリーズは、高評価のデジタル水平差動天秤方式に新たな天秤制御技術を加え、μgオーダーでのベースライン安定性、再現性を実現しました。さらに、どちらのシリーズも日立ハイテクの特長である試料観察熱分析RealView®TAを搭載可能。その変化を光学観察することにより、これまでデータだけではわからなかった事象を捉えることができます。日立ハイテクには素材の進化を加速させる技術があります。

DSC測定結果イメージ図

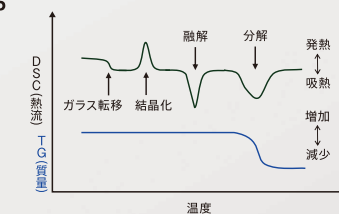


- 試料の相転移を高感度に検出
- 室温以下から測定可能

示差走査熱量計(DSC)
NEXTA DSC SERIES



STA(TG-DSC)測定結果イメージ図



- 試料の熱分解などによる質量変化を検出
- 吸発熱の情報から起きている現象がわかる

示差熱重量同時測定装置(TG-DSC)
NEXTA STA SERIES

